

6) 活動のポイント

1) コンバージョンを通じた企業、行政、NPOのコラボレーションの実現

KC山下町の既存借上市営住宅は取り下げることになったが、14年の9月から半年間、KC山下町ビルの既存建物を再生活用するうえにおいて、企業としての事業の考え方、もう一方では所有者個人としての思いなどが交差するなか、転用できる判断材料の情報を集め、企業に提供することが、下宿屋バンクの役目でした。そして企業の考え方に行政がどこまで捉えてもらえるようにするかなど、行政に企業の情報を的確に伝達すること。企業には行政の立場や制度の理解を求め、より良い方向に結び付けることであった。下宿屋バンクはこのような行政とかかわりを持つ意味で課題となるのは、新しい取り組みの際、常に制度の問題で壁にあたる。この事業は断念したが、企業、行政のコラボレーションは三者に取ってマイナスではなかったと思う。

2) 三者のメリット・デメリットの明確化相互理解

では、借上住宅の企業メリットは安定収入があり保証されている。デメリットは、企業経営は利益型のため、この事業は一定の利益だけで、それ以上の収入が見込めないなど。建築費用が多額にかかる。などが理由に上げられた。

行政のメリットは、既存借上市営住宅の推進するうえで、課題や問題が具体的に捉えられたと思う。

下宿屋バンクのメリットは、企業や行政に明確にNPOの活動や性格が理解してもらえたこと。企業の考え方とNPOの取り方の違いができたこと。行政との協働事業の進め方などが把握できたこと。また、デメリットは、既存ビルの再生活用が実現できず、既存建物のハードの勉強が不可能になったこと。下宿屋バンクにとって、この事業を通して企業と行政の中立的な立場で判断し、コーディネーター

をすることの意味が理解できたこと。さらに、中間的組織の必要性を実感した。

・ 活動の人材

主な活動協力者

萬羽設計室	萬羽 敏郎
ハル建築研究所	長島 一道
フォートデザイン	田上 勝広
慶応大学研究生	阿部 由利
関東学院大学	中村 昌枝
その他	高田 滋
	高橋 徳美
	田上 敏子
	前田 恵里
	山本八重子

エコ住宅リサイクル

ルバンク 宮島 良尚

下宿屋バンク

スタッフ 白川部昭子

下宿屋バンク代表 崎野 早苗

その他参加者 6名

専門家は、下宿屋バンクが主催するシンポジウムなどに参加された。

大学生は卒業論文の製作に下宿屋バンクに調査研究にみえた。

その他は、ボランティアで時々参加してくれる。

この調査で、短い期間の現場調査でしたが、萬羽さんに調査の手順や整理の仕方また必要な資料がどこに行けばあるなど、指導して下さって地図や資料作成に助かりました。

高橋さんが山下町の情報を良く知っているのので、速くに現場調査ができた。田上さんのイラスト地図が横浜のイメージが表現できたこと。